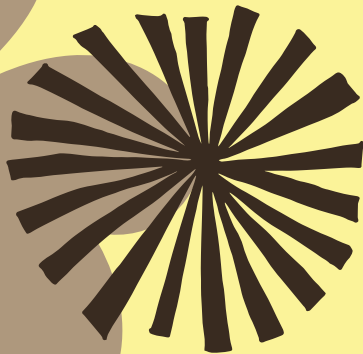


2023年3月

わかもの こども・若者から 意見をきくために

こども政策決定過程における
こどもの意見反映プロセスの
在り方に関する調査研究
報告書（やさしい版）案





目次

- 1 はじめに
- 2 調べたこと
- 3 日本での取組
- 4 海外での取組
- 5 ^{せんもん}専門家の話
- 6 こどもたちの声
- 7 これからのこと

ごめんなさい！

この資料は、意見をきく取組に参加してくれたみなさんに、一足先に読んでもらうためのものです。まだ作っているとちゃうので、ふりがなはこのページまでしかありません。

これからこの資料について、みなさんの意見をさらにきくので、この資料が世の中に広く公開される時には、内容が少し変わっているかもしれません。

その時には本文にもふりがなをふるので、読めないよという人はそれまで待つてもらえるとうれしいです。

1.はじめに

こどもや若者のみなさんは、一人ひとりがとても大切な存在です。
みなさんが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、
社会全体で一緒になって取り組んでいくことがとても重要です。

すべてのこどもや若者が自分らしくいられることができる社会を目指し
て、その基本的な考え方をはっきりさせ、こどもに関する取組を社会全体
で進めていくため、「こども基本法」という法律ができました。
そして、この取組を引っ張っていくために、2023年4月にこども家庭庁が
できます。

「こども基本法」では、国や地方自治体*は、こどもや若者の意見を
ききながら、こどもに関する取組を進めていくことが決められています。

そこで、どうしたらこどもや若者が自分の意見を伝えやすくなるのか、
こども家庭庁に提案するために調べてみることにしました。

こども基本法は憲法と
児童の権利条約に定めら
れた思いを大事にしてい
るんだ！



- ・ こども基本法

（目的）日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども政策を総合的に推進する。

- ・ 日本国憲法

基本的人権の保障（第11条）、個人の尊重（第13条）、法の下
の平等（第14条）

- ・ 児童の権利条約4つの原則

差別の禁止（第2条）、児童の最善の利益（第3条）、生命、生存
及び発達に対する権利（第6条）、児童の意見の尊重（第12条）

2.調べたこと

わたしたちは「こども・若者から意見をきくこと、そして、きいた意見を政策に反映*すること」について、共に考えてくれるおとな（検討委員）にアドバイスをもらいながら、どうするのが良いかを調べました。

まずは、国内や海外で行われてきた「こども・若者の意見を政策に反映させる取組」について調べました。また、こどもや若者のことをよく知っている人（専門家）に話をききました。さらに、こどもや若者が国や自治体に意見を表明しやすい仕組みについて、2,000人以上のこども・若者にさまざまな方法で意見をきいてみました。

そうして調べたことから「これからこども・若者の視点に立って政策を考えていくために、こども・若者が参加しやすく、安全・安心に意見を伝えられる環境をどう作ったら良いのか」を考え、2023年4月にできるこども家庭庁への提案としてまとめました。

いろいろな人に意見をききました

こども・若者（2,361名）

年代：未就学2名、小学生世代630名、中学生世代379名、高校生世代400名、高校卒業以上世代950名

意見のきき方：対面48名、オンライン51名、チャット53名、Webアンケート2,119名、グループ・個別ヒアリング90名

検討委員（7名）

性別：男性4名、女性3名

年代：20代3名、40代以上4名

専門：こどもの権利、こども・若者参画*のまちづくり、こども・若者の社会への参画、教育社会学、社会的養護*のこども・若者支援、医療的ケア児*支援

専門家（16名）

性別：男性9名、女性7名

年代：20代1名、30代5名、40代以上10名

専門：若者の社会参画、主権者教育*、こどもの権利・人権、声をあげにくいこども、乳幼児*、こども参画のまちづくり・環境づくり、海外の取組

反映：取り入れること

参画：参加し、関わること

教育社会学：教育と社会についての学問

社会的養護：保護者がいない、保護者が育てるのがむずかしいなどの時に、こどもを社会が守り、育てること

3

医療的ケア児：生活の中で、人工呼吸器やたんの吸引といった特別な道具や助けが必要なこども

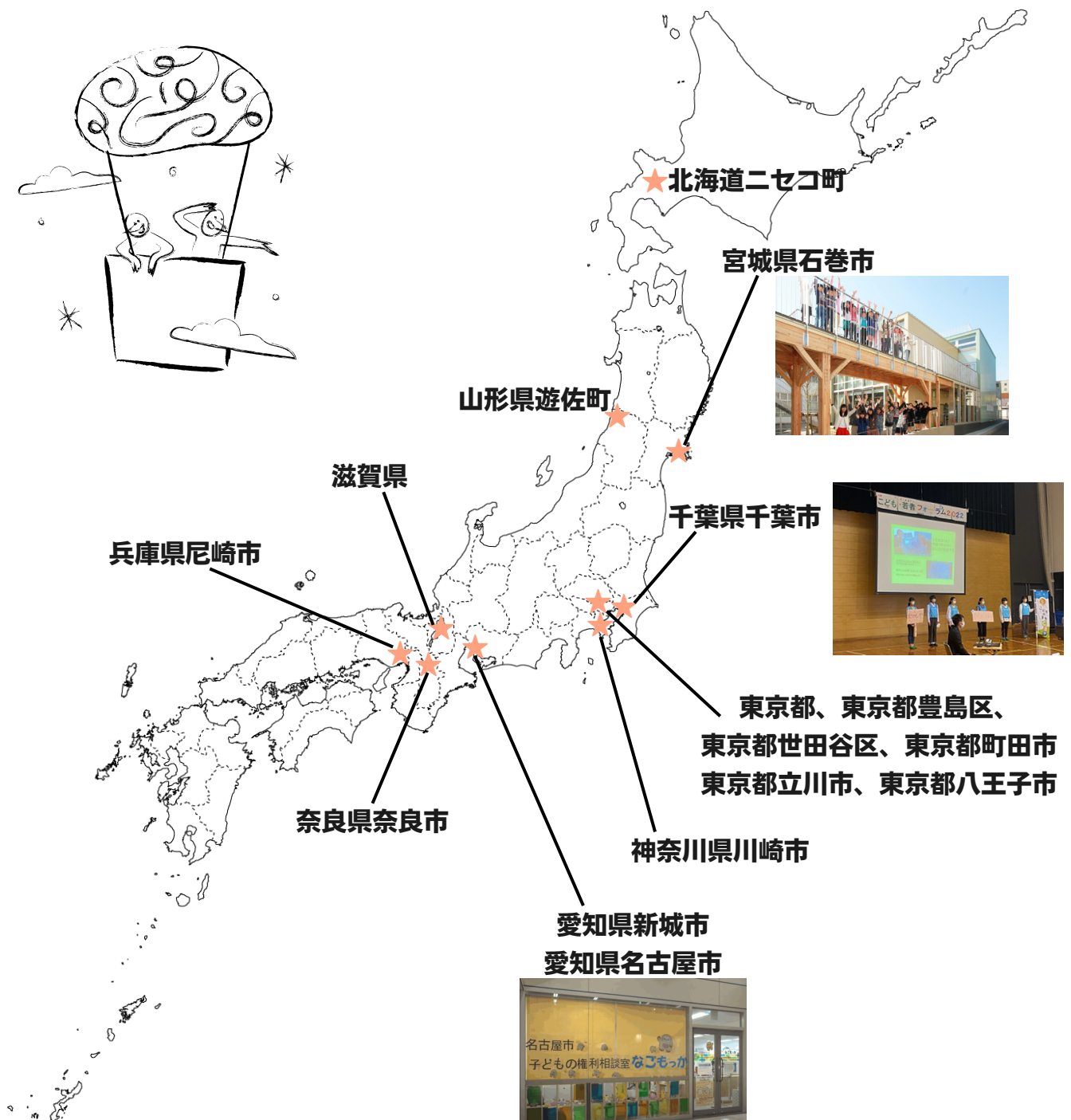
主権者教育：国や社会の問題を、自分に関係あることだと考え、関わる力を育む教育

乳幼児：産まれてから、小学校に入学する年れいまでのこども

3.日本の取組

日本でも、さまざまな自治体でこども・若者から意見をきく取組が行われています。その取組について、調べてみました。

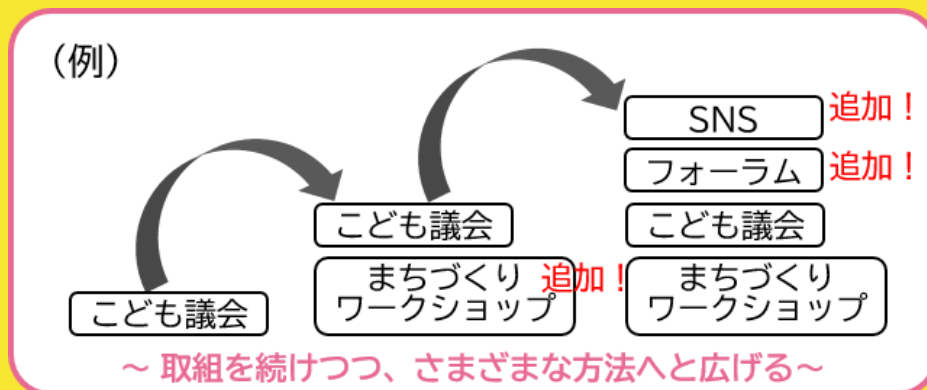
調べた自治体



自治体の取組の良かったところ

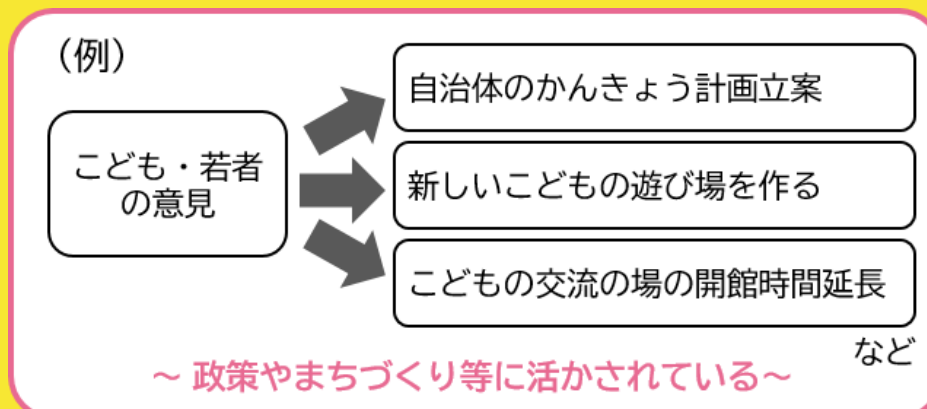
【こども・若者から意見をきく方法】

- 自治体によって、条例*を作って取組をしているところがあれば、SNSやアンケートなどで気軽に意見を表明できる機会を用意しているところもあり、意見をきくことの実現方法も様々でした。中には、いくつかの方法をうまく組み合わせているところもありました。そうした自治体では、10年～20年かけて、上手な方法を作り上げてきていました。



【こども・若者から意見をきいた成果】

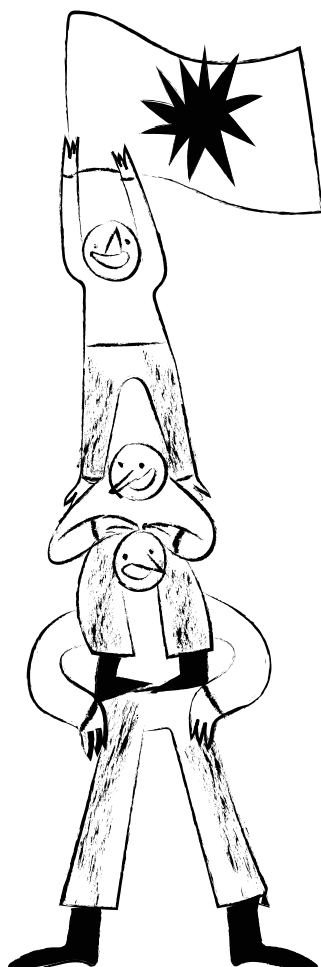
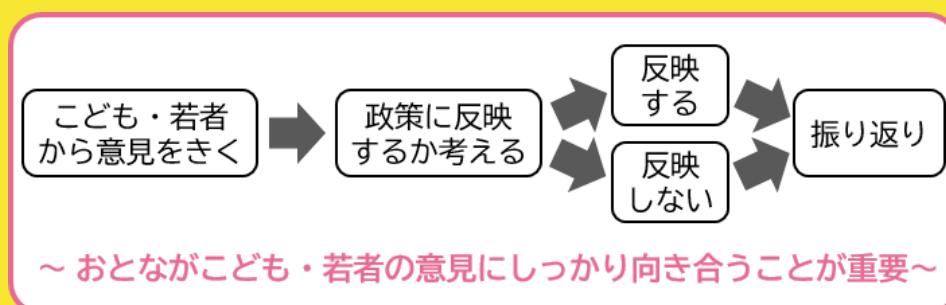
- こども・若者の意見は、きかれるだけでなく、政策*やまちづくりに活かされていることもわかりました。中には、こども・若者に予算*を提案する権利を用意したり、自治体が持っている施設の運営をこども・若者主体で行ったりしているところもありました。



自治体の取組の良かったところ（続き）

【しっかりと振り返りをする】

- ・ こども・若者の意見が政策や取組へ反映されなかった場合でも、大人が「こどもの最善の利益（こどもにとって一番いいこと）」という考え方を大事にしながら、どのように考えたのかをこども・若者に伝えることで、こども・若者が自分たちの意見がしっかりと伝わっていることを感じるることができるということが分かりました。



4. 海外の取組

ヨーロッパ連合（EU）、アイルランド、フィンランド、ニュージーランドの取組について調べました

こども・若者から意見をきくことについて、海外では、ヨーロッパを中心にさまざまな取組がされています。その取組について、調べてみました。

海外の取組の良かったところ

国の方針決めに関われる



国の方針を決める時に、数千人～数万人のこども・若者の声をきいている。こども・若者の声で方針が変わったこともある。

さまざまな場で意見を伝えることができる



The Finnish National Youth Council
Allianssi

民主主義*について学び、国会議員などに直接声を届ける機会がある。その経験が将来の職業選択や投票にも影響している。

声をあげにくいこども・若者の声をきく



声をあげることが難しいこども・若者がいることを明らかにしている。そして、公平のために、そのようなこども・若者たちからは積極的に意見をきく、ということを決めている。

政治とこども・若者のかけ橋



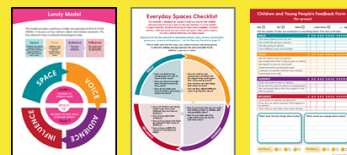
政策を若者向けに分かりやすく情報発信したり、SNS上の若者の声をまとめて国に届けたりする若者たちがいる。

オンラインで話し合える場所



こどもや若者に関する問題について、オンラインで匿名で議論できるプラットフォーム*が作られている。（テスト段階）

おとながこども・若者の声をきくことを助ける仕組みや方法



政策を決める立場のおとながこどもや若者の声をきくための仕組みや、声をきけているか確認する方法などが開発されている。

5. 専門家の話

こども・若者のことにくわしい人たち（専門家）に、こども・若者の声をきくためにどうしたら良いか、大事なポイントは何かをききました。

大事なポイントの例

- ・意見をきかれることはこども・若者の権利。こども・若者が主役。
- ・意見をきくことも大事だけど、こどもや若者が意見を考えるための手助けをすることも大事。
- ・声をきく方法はこどもや若者が選べるようにいろいろあった方がよい。
- ・大人がききたいテーマの意見だけを求めるのはダメ。どんなことについて意見を伝えたいのかを決めるところからこどもや若者が参加できる方がよい。
- ・いろいろな背景をもつこども・若者の声をきくことが大事。たとえば、防災がテーマの時は、災害が起きた時に助けから取り残されやすい重い障害を持つ人に話をきくなど、テーマに強く関係するこども・若者の声は特にしっかりときくことが大事。
- ・声をあげにくいこども・若者の声こそしっかりきこう。そのために必要な工夫については、どの省庁*・地方自治体でもできるように分かりやすくまとめられているとよい。
- ・こども・若者が「意見を伝えやすいな」と思える場づくりができる大人を増やそう。
- ・意見の「ききっぱなし」はダメ。きいたことはしっかり受け止め「こどもの最善の利益」を考えて政策に反映する。反映が難しい場合は、できない理由をしっかりと説明し、どんなことならできそうかこどもや若者と対話しよう。
- ・政策に反映しても「やりっぱなし」はダメ。実現してみてどうだったのかを確認・評価しよう。それも、こども・若者と一緒にやろう。
- ・とにかく「こども中心」を大切にしてほしい。そのことを世の中全体に広めてほしい。
- ・こども家庭庁だけでなく、他の省庁と協力して実現してほしい。また、国だけでなく、地方自治体にも広めてほしい。
- ・こども・若者の声をきく手助けをしている人たちを助けてほしい。
- ・こども家庭庁がもっとこどもたちの近くにあるとよい。

省庁：国の役所で、担当ごとにさまざまなものがある
（こども家庭庁もそのうちのひとつ）

6.こどもたちの声

「どのような仕組みや環境があれば、こどもや若者は国や自治体の政策について意見を伝えやすいか」をテーマに、さまざまな方法でこどもや若者から意見をきいてみました。

さまざまな方法できいてみました

広くこども・若者に きいてみた

- ・ 対面
- ・ オンライン
- ・ チャット
- ・ webアンケート

こどもの居場所や 施設に行って きいてみた

- ・ 不登校のこども
- ・ 児童養護施設*
- ・ 児童相談所一時保護所*
- ・ 困難を抱える若者*
- ・ 児童館*を利用することも

専門家に きいてみた

- ・ 乳幼児
- ・ 医療的ケア児

協力してくれたみなさん、
声をきかせてくれてありがとう！

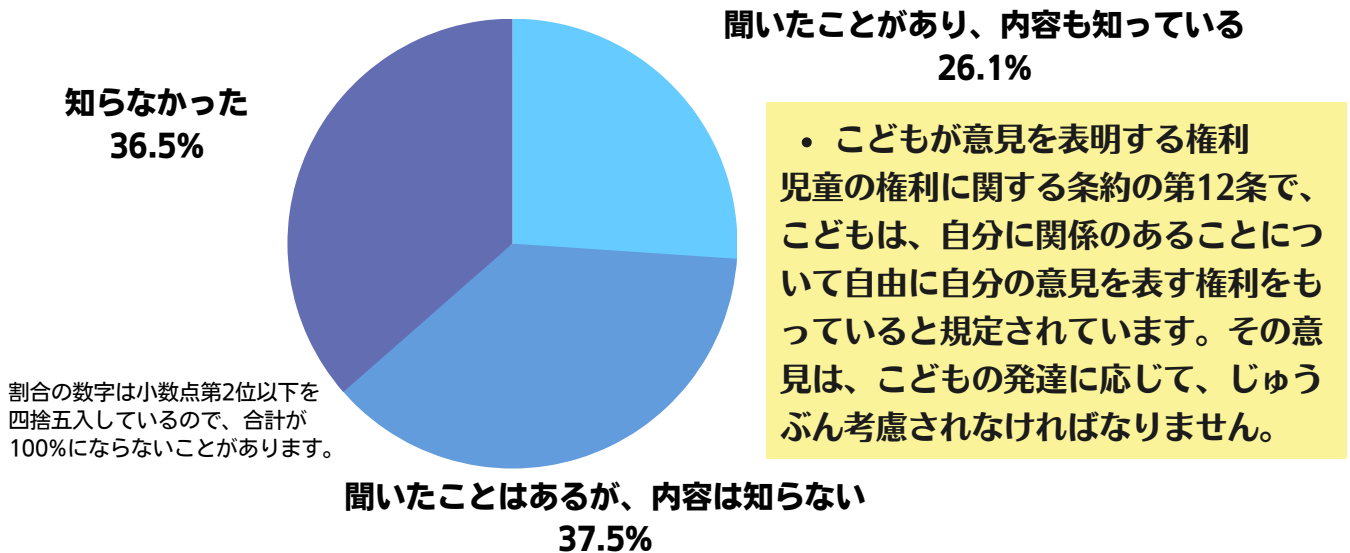


児童養護施設：こどもが家庭以外の場所で暮らすところ
児童相談所一時保護所：ぎゃく待や、家族が育てられないなどの理由で、こどもが家庭から一時的に離れて暮らすところ

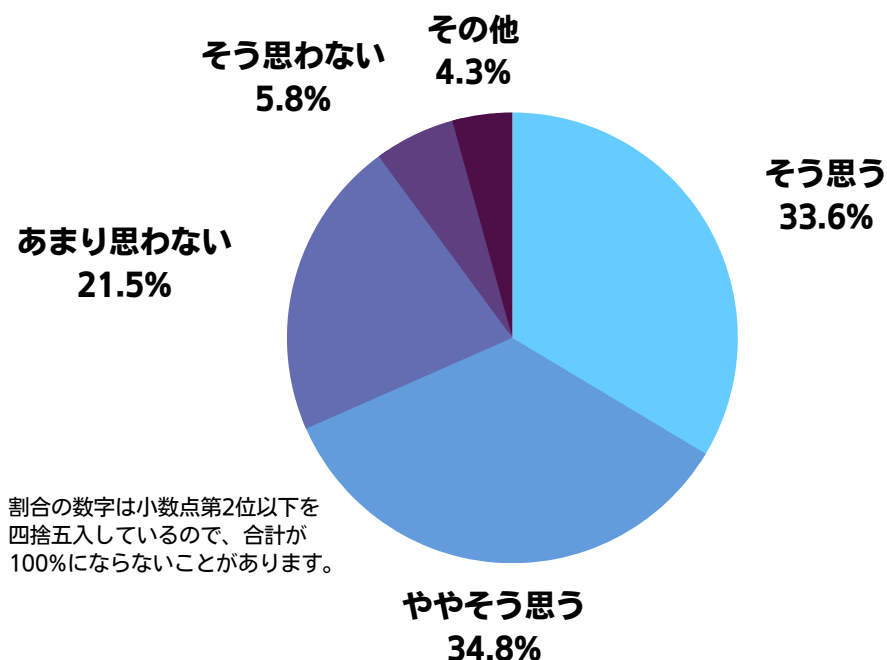
困難を抱える若者：ここでは「社会的養護を経験した若者、親元からひなんした若者」を指す
児童館：こどもの体験・交流・遊びを手助けする場所

webアンケートの声

Q：こどもが意見を表明する権利を知っていますか？（2,119人）



Q：国や自治体の制度や政策について、
思ったことや意見を伝えたいですか？（2,119人）

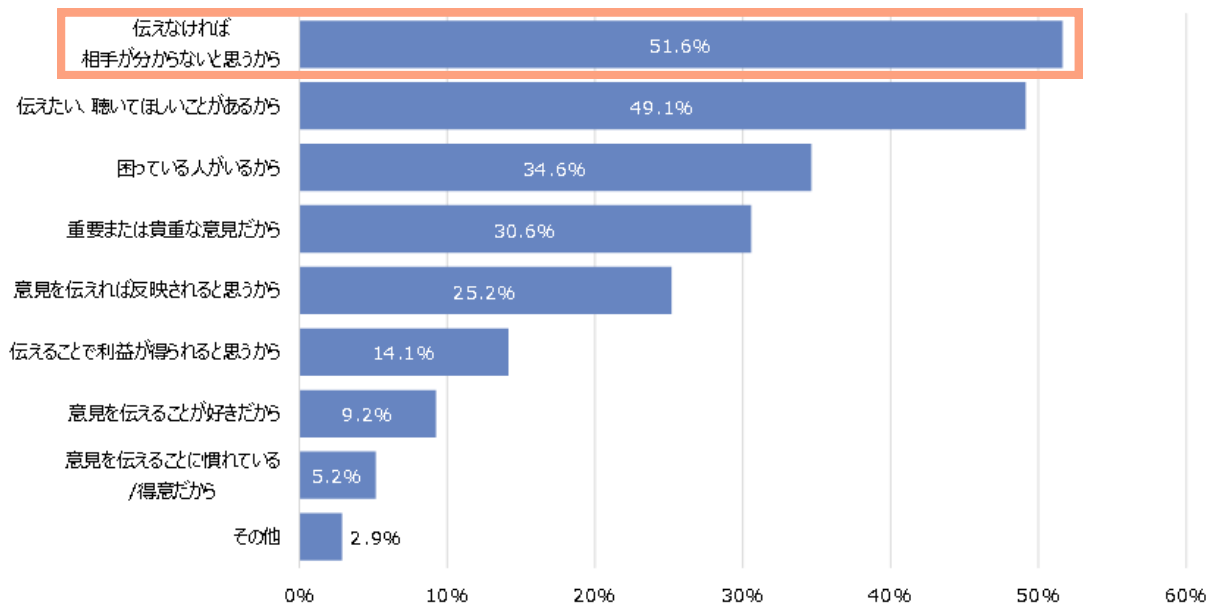


「意見を表明して良いんだ」ということ（権利があること）
はあまり知られていないみたい。

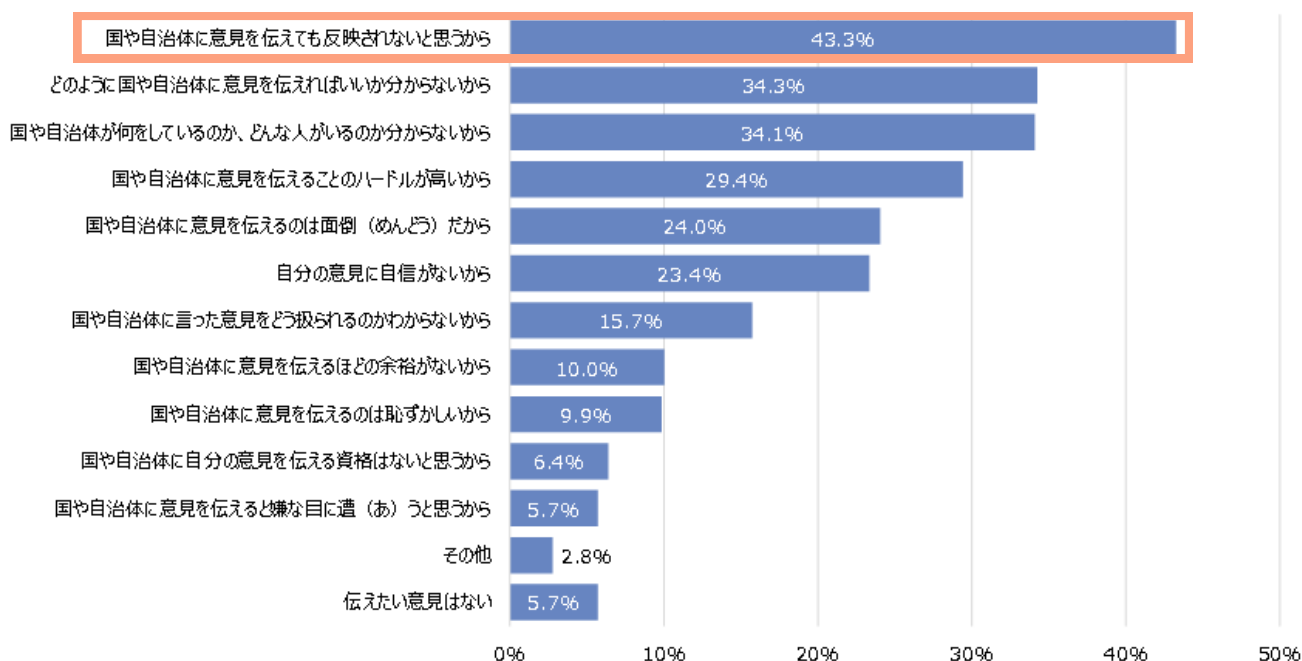
次のページからは、どうして意見を伝えたいか、どうしたら
意見を伝えやすいかなどについて、こども・若者のみなさん
から届いた声を紹介するよ。

webアンケートの声

Q：国や自治体に意見を伝えたい理由は？（1,449人）



Q：国や自治体に意見を伝えたいと思わない理由は？（576人）



国や自治体に意見を伝えたい理由では「伝えなければ相手が分からないと思うから」、伝えたいと思わない理由では「国や自治体に意見を伝えても反映されないと思うから」がそれぞれ一番多く選ばれたんだ。

webアンケートの声

**Q：どのような相手であれば、
国や自治体に対して意見を伝えやすいですか？
（一部の回答を紹介）**

【相手の年代、性別、関係性は関係ない】

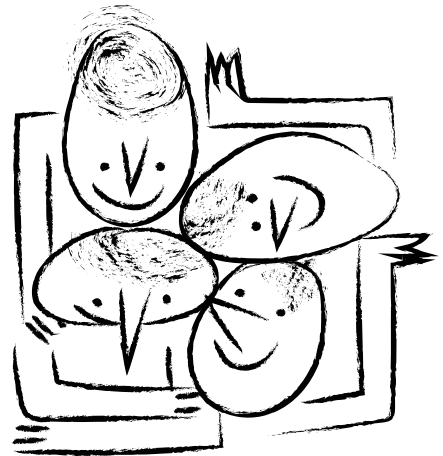
- きちんと話を聴いてくれる人。話を聴いてくれる人なら誰でもいいです（小学生）
- 年代とかじゃなくて、偉そうじゃない人、子供の意見を決めつけたりバカにしない人。学校の成績とか内申に関係がないと保証されてる人（中学生）
- 年代関係なく、対等に最後まで話を聞き、良い方向にむけて一緒に議論できる人（26～29歳）
- 伝える相手の性別にこだわりはないが、安全確保が大前提（26～29歳）

【身近な人】

- 学校の先生、お父さん、お母さん（小学生）
- 知っている人で信頼できる人（高校生）

【機械・AI】

- AI（中学生）
- 初対面の機械（高校生）



国や自治体に意見を伝える時に、どんな人なら伝えやすいと思うかについては「相手がどんな人かよりも、きちんと話をきいてくれるかどうかが大事」という声がたくさんあったよ。また、身近な人や機械・AIが伝えやすいと答えた人もいたよ。

対面・オンライン・チャットの声

テーマ：声をきく人について (一部の回答を紹介)

【ファシリテーターについて】

- 敬語とかすぎたら話しにくい、自分も敬語を使わなきゃいけないな（オンライン／小学生）
- 違う解釈をされたりするのが嫌なので、聞き取りが不十分な時はもう一回聞いて欲しい（チャット／中学生）
- 「何でもいいよ」、「大丈夫」という声かけで安心感を与えてほしい（対面／高校生世代・18～19歳）

【国や行政職員について】

- 子供からしたら、行政によって変わったと思うことが無いから、何を意見すればいいのかもわからない（チャット／中学生）
- 政策や法令の分かり易い解説動画みたいなものを作るといいと思います。ただ興味はあるけど、今はさっと学べる物じゃないから手を出しにくい（チャット／中学生）
- 国の組織に「話してもいいんだよ」と言ってくれる人がいてほしい（対面／高校生世代・18～19歳）

【声をきく人に気を付けてほしいことについて】

- 信頼しているお父さん、お母さんにも言えないことがあるので、親に相談できないことを電話した時に親に伝わらないこと（対面／小学生）
- 誰に開示されるのかプライバシーポリシー*で分かりやすく説明する仕組みが必要（対面／18歳～19歳）

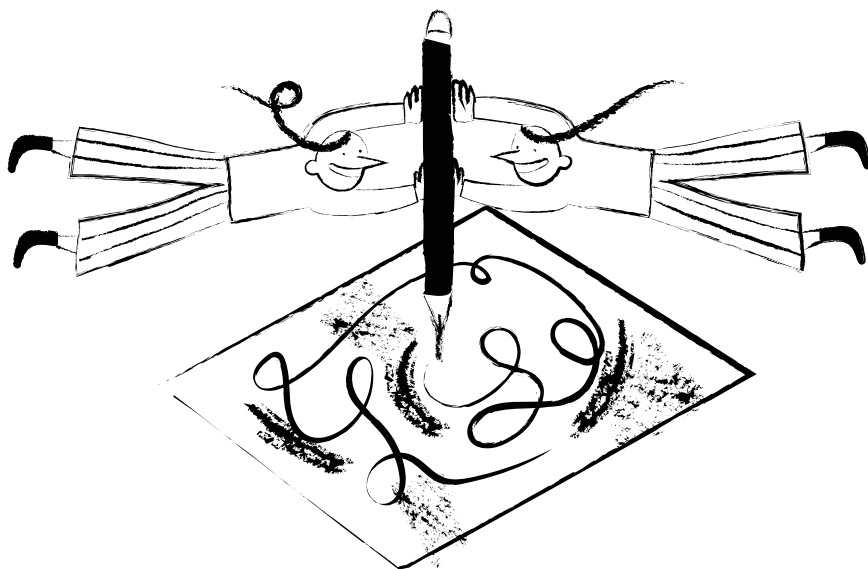
対面・オンライン・チャットの声

テーマ：意見を伝えるテーマについて (一部の回答を紹介)

- 答えがない話なら意見を言えるかも（対面／小学生）
- 正解がないテーマの方が話しやすい。どんな意見もOKだと、思ったことを言いやすい（オンライン／高校生）
- 事前に「こういうことに対して意見を言ってね」といってもらえると意見を言いやすい（オンライン／高校生・18～19歳）
- 申込みしてからもちっとドキドキしてたけど、事前にもらった資料がわかりやすくて思ったよりイラストとかもあって、少し緊張がほぐれました（チャット／中学生）



正解がないテーマの方が話しやすいという声があったよ。思ったことを自由に話せるのがいいのかもしれないね。
また、事前に話すテーマが分かっていたり、そのテーマについて説明する資料があったりすると意見を伝えやすいという声もあったよ。



対面・オンライン・チャットの声

テーマ：意見を伝える方法について (一部の回答を紹介)

【対面で意見を伝えることについて】

- 対面は相手の表情やテンポ（反応）がわかるのでよい（対面／高校生）
- 議論を深めていけるところがいい（対面／高校生）
- 対面は少人数がいい（対面／高校生）

【オンラインで意見を伝えることについて】

- 急用、移動中には便利、親にばれにくいので一歩踏み出しやすい（対面／小学生・中学生）
- マイノリティの場合、遠くの同じ悩みを持つ人と話せる（対面／小学生・中学生）
- マイクとビデオはオフにしたい場合もある（対面／小学生・中学生）
- 人数が多いのでしゃべりづらい。自分だけ沢山しゃべってしまうのではないか（出番を読み間違えちゃう、タイミングを間違えちゃう）（オンライン／高校生・18歳～19歳）

【チャットやSNSで意見を伝えることについて】

- どんどん別の話になっていって、自分がかかわっている感じがなくなる（対面／小学生）
- SNSは意見がすぐに言える、文字で投稿できるのがいい（オンライン／小学生・中学生）
- 考えてる間に議論がどんどん進んでいってしまっていて結局自分の意見が言えなかった、ってことが多々あるので、確実に意見を伝えられるチャットはありがたいです（チャット／20代前半）

対面・オンライン・チャットの声

テーマ：意見を伝える方法について（続き） （一部の回答を紹介）

【アンケートで意見を伝えることについて】

- ・ 学校単位でアンケートが行えると良い。その際に学校に来られない人にも別に対応できると良い（対面／高校生世代・18～19歳）
- ・ アンケートは運営しやすいが、意見を言いたい人だけの声になる（オンライン／高校生）
- ・ 手法としてはWEBアンケートであれば通勤・通学時間でも入力でき有効であるように感じます（チャット／20代）

【声をあげにくいこども・若者がこうしてほしいと思うこと】

- ・ ちょっとずつステップを踏むことが大切（フリースクール、保護者に知ってもらうなど）（対面／中学生）
- ・ 意見を言いにくい人は普段からなんでも言える人を間にはさむと何でも言える環境になる（対面／20代）
- ・ 普段接する中で自然に吸い上げる仕組みが必要（対面／20代）



意見を伝える方法については、対面、オンライン、チャットやSNS、アンケート、それぞれにいいところと難しいところがあるということが、参加してくれたこども・若者の声からも分かったよ。

また、声をあげにくい立場のこどもや若者からも声をきくことが大切という意見も多くあり、そのこども・若者が声をあげやすくするためのいろいろなアイデアや意見が出たよ。

対面・オンライン・チャットの声

テーマ：意見を伝える方法について（続き） （一部の回答を紹介）

【その他】

- 限定的な手法だとリーチできる人に限りがあるため、様々な手法で意見を言えることが大事（対面/18歳～19歳）
- 廊下などに、自由に意見を書ける場所を作って、こども家庭庁が取りに来る＝直接声が届く（オンライン/小学生・中学生）
- 学校の道德の時間とかを使って意見を言い、学校側がそれをまとめてみたいのがあれば言いやすいなぁと思います（チャット/中学生）
- 若者がいつでも自由に意見できるチャット的な窓口を開いておいたらいつでも自由に書き込みできるかも？（チャット/中学生）
- ネットでの24時間受付フォームは今の時代かなり普及しているはずなのに、なかなか国や自治体では取り入れられてない印象（チャット/20代後半）
- フリーダイヤルで電話ができる窓口があれば、意見を何でも気軽に言うことが出来ると思います（チャット/高校生・18歳～19歳）
- 国や自治体で、こども定例議会をつくって、月1回など定期開催をして意見を言ったりする。メンバーを一般の人から募ったり、メンバーでなくても生配信などでコメントができると、より門戸が開くと思いました。参加者集めには、そこにすでに参加している若者が中心になって、Twitter、Instagram、TikTok等のSNSを活用できるといいと思いました（チャット/高校生・18歳～19歳）



その他にも、学校を通して意見を届けるような方法があると良いという声や、いつでも意見を言えるフリーダイヤルや受付フォームがあると良いという声があったよ。また、こども定例議会を作るというアイデアを出してくれた人もいたよ。どんな人でも、その時々で意見を伝える方法を選べると良いね。そのためにも、声をあげるためのいろいろな方法が用意される必要がありそうだね。

対面・オンライン・チャットの声

**テーマ：安心して意見を伝えるための場づくりについて
（一部の回答を紹介）**

【場所・空間について】

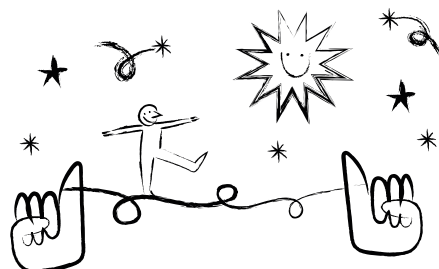
- かたくりしい場は言いにくい（対面／高校生）
- ジャッジされない場所（対面／18歳～19歳）
- 自分の匿名性や個人情報が守られている場（チャット／20代後半）
- 緑があったり、置かれている椅子が柔らかかったり、照明がちょうどいい明るさだったり、とりあえず「かたい」印象を受けるもの以外ですかねえ（チャット／20代）

【時間のゆとりについて】

- 忙しそうにしていると話しにくいので、相手が時間的、心理的ゆとりを持っていることが大事（対面／20代後半）
- 学校だと時間が限られていて、難しい話はしづらい。しっかり意見交換の時間があって楽しかった（オンライン／小学生・中学生）

【グループの人数について】

- 少人数がよい。大人数だと相手が何を考えているか分からない（対面／小学生・中学生）
- 5～7人の少人数がよい。10人は多い（対面／18歳～19歳）
- 意見を出す話し合いの場面は、比較的多くでも大丈夫（オンライン／20代後半）



対面・オンライン・チャットの声

テーマ：安心して意見を伝えるための場づくりについて（続き）
（一部の回答を紹介）

【グループの年代について】

- ・相手の考えが見えないため、年下との意見交換の方が苦手（対面／中学生）
- ・同世代であると意見が言いやすい（対面／高校生）
- ・意見を聞く時は、違う世代の人と話すと、違う考え方や知識、自分にはないものを得ることができる（オンライン／18歳～19歳）

【グループ内の関係性について】

- ・仲良い人、信頼している人、友達と一緒にがよい（対面／中学生）
- ・仲がいい人だと話やすい、知らない人・かかわりが無い人だと話は言いにくい（オンライン／小学生）
- ・センシティブな話題ををするとしたら、似た環境、似た境遇で同年代の人と話せるなら言いやすい（オンライン／高校生・18歳～19歳）
- ・評価する人に対しては言いにくい。先生や上司など、自分がどんな風に見られているのか気にする相手には発言を選んでしまう（オンライン／20代）
- ・その場限りの人達であるということ（チャット／18歳～19歳）
- ・Twitter等の本名や個人が特定されない場面、不特定多数に向けて自分の素性を隠していると意外と本音の意見が言いやすいなあとってます（チャット／20代後半）



安心して意見を言うためには「かたくるしい」場ではないこと、知られたくないことや個人情報を守られること、時間にゆとりがあること、少人数が良いなどの声があったよ。

グループの年代や関係性については、関係が近い人が良いという声もあれば、知らない相手の方が言いやすいという声もあって、人それぞれだったんだ。

対面・オンライン・チャットの声

テーマ：自分たちが伝えた声のその後について (一部の回答を紹介)

- 反映されていなくても反映されない理由を伝えてくれれば向き合ってくれていると感じる（対面／18歳～19歳）
- 反映プロセスを明確化してくれると安心感があり、言った後の未来が明るいと感じる（対面／高校生世代・18～19歳）
- 若者は若く弱く少ないので、どうしても意見が通りにくく感じます（チャット／20代後半）
- フィードバックする場、結果を教えてもらう場が欲しい（対面／小学生・中学生）
- 意見を肯定してくれて、実際に政治に影響しているんだと分かれば、自分たちで国を変えることができるんだと思える。そうすれば言おうと思える（オンライン／高校生）
- 反映まで行かなくても、「ちゃんと受け取ってくれたんだ、決めるまでの過程で参考に使ってくれたんだ」と分かるのは重要だと思います（チャット／20代後半）



「こどもや若者の声はきかれにくい」「意見を伝えてもどうせ反映されない」という声が多かったよ。この現状は、こども家庭庁も変えたいと思っていることだよ。

「伝えた意見がどのように反映されていくか」「反映された結果どのように変わったのか」をきちんとみなさんに知ってもらうことは、みなさんの声を大切にして政策を良くしていくためにとても重要なことなんだ。また、反映が難しい時でも、その理由を伝えてもらえたり、決めるまでの間で参考にされたということを説明されたりすることが重要だという声もあったよ。



対面・オンライン・チャットの声

テーマ：意見表明に関する教育について (一部の回答を紹介)

- 学校の授業などみんなが知れる場として考える機会を与えられるとよい（対面／中学生）
- 知らない人も多いのでこどもの権利を学校で教えてほしい（対面／小学生・中学生）
- 学校でも、子供たちは意見を言えているとは限らない。子供たちの発言がないと進まないような授業があると、言いやすくなる（オンライン／18歳～19歳）
- 義務教育場面などで、声を届ける方法を知りたかった（政治・選挙場面）（オンライン／20代後半）

テーマ：意見表明の機会の認知度向上について (一部の回答を紹介)

- このような取組の認知を広げるために、年齢層別に発信方法を変えるべき（対面／高校生世代・18～19歳）
- 参加したくなるメリットがあったら、今関心のない人にも届くかも。SNSで攻める！（オンライン／18歳～19歳）
- 若者のインフルエンサーに宣伝してもらうのもいいかも！（チャット／中学生）



意見を言うことやその権利について、学校の授業で教えてほしいという意見があったよ。

また、今回の調査のような、こどもや若者から声をきく機会があるということを、もっと多くの人に知ってもらうためのいろいろな提案も出てきたんだ。

みなさんの意見がとても参考になります。ありがとう！

こどもの居場所や施設に行ってきた声

※不登校のこども、児童養護施設で生活することも、児童相談所一時保護所で生活することも、困難を抱える若者、児童館を利用することもからきいた声

テーマ：気持ちを伝えること、意見を伝えることについて (一部の回答を紹介)

- 伝えた内容が先生や親などに知られるのは嫌（中高生世代）
- 意見を勘違いされて受け止められたとき、受け止めがあるから違うと言にくい（中高生世代）
- 国民の意見が反映されていないのに、こどもの意見が反映されるのか？不信感がある（中高生世代）
- 大人がききたいこととこどもが話したいことは違う（小学生）
- 大人には言わず、我慢している。自分が話したことを勝手にバラされたら嫌だし怖い（小中学生）
- 自分の家が普通と思っていた。自分が悪くて大人が正しいと思っていたから、相談するという認識にならなかった（若者）
- 大人にもっと話をきいてほしい（小学生）
- 気持ちや考えを自由に言いたい、否定や反論をされるとそれ以上言えない（小学生）
- 意見を伝えても何も変わらないと思う。話をききに來る人がいたり、意見のアンケートに答えたりしたことがあるが、何も変わらず、意味ないと思った（高校生世代）
- 声をあげても大人がその意味を理解しない。変えてほしいのではなく、分かってほしい（高校生世代）
- 中学生の頃はあまり言っていなかったかもしれないけれど、学校の友達に言えないことは児童館に言う、児童館で言えないことは学校の友達に言う、といったようにすみ分けていた（20代前半）
- 「なんでも相談して」と言われると、逆に相談したくなくなる（20代前半）

こどもの居場所や施設に行ってきた声

※不登校のこども、児童養護施設で生活することも、児童相談所一時保護所で生活することも、困難を抱える若者、児童館を利用することもからきいた声

テーマ：意見を伝えやすい仕組み、方法、環境について (一部の回答を紹介)

- こども家庭庁がこどもの意見をきくには、知名度、信頼、やりやすさ（伝えやすさ）が必要（中高生世代）
- 大人が決める文化を変える（中高生世代）
- 学校の先生から案内すれば多くの人に届くが、自分たちのような学校に行っていない人には届かないというのは良くない（中高生世代）
- 少数意見もきいてくれる（中高生世代）
- 選挙や政治について。例：関心はあるが専門用語ばかりで分かりにくいし情報を詰め込みすぎ、こども向け選挙公報のようなものと良い、こどもは政治のことに口出すなど思われていそう、こどもだって言いたいことがある、こどもが分かるようにしてほしい（中高生）
- こちらに来てきいてもらいたい。その際、職員はいない方が話しやすい（高校生世代）
- （首をかしげながら）「〇〇さんと比べて…」と言わなければいい。人と比べられるのは嫌（小中学生）
- 手紙を書いて直接こども家庭庁に届くといい。ヒアリングは面倒と言う子も、手紙なら伝えやすいと思う（小中学生）
- オーバーリアクションの人、大変さにばかりフォーカスする人は苦手。普通にしてほしい（若者）
- 日常の中での声をきいてほしい。特別な場（面談、カウンセリング）は周りの目が気になる（若者）
- 話したことを取り消せることも大事（若者）
- 口では言えないこともあるので、頭の中にある考えを書いて示せるようなものがあるといい（20代前半）
- 人と違う意見を言う人に対して、尊重、尊敬する人を増やしたほうがいい（中高生）

こどもの居場所や施設に行ってきた声

※不登校のこども、児童養護施設で生活することも、児童相談所一時保護所で生活することも、困難を抱える若者、児童館を利用することもからきた声



公募では声を伝えづらいと考えられるこどもや若者のところには、個別に行って意見をきいたよ。

意見や気持ちを伝えることについて、意見を伝えても変わらないと思っていたり、おとなには言わずに我慢しているといった声があったよ。また、おとながききたいこととこどもが意見を伝えたいことは違うという指摘もあったよ。

それでも、大人にもっと話をきいてほしいという声もあって、声をあげることはムダじゃないんだと思ってもらえるようにしていけないことがよく分かったんだ。

意見を伝えやすい仕組み、方法、環境については、話すための場があること、他の人と違う意見でもきいてくれることを求める声があったよ。また、自分たちまで案内が届くようにしてほしい、自分たちのいるところに来て声をきいてほしいというように、声をあげる機会を求める声もあったんだ。

意見の伝え方については、口で話すだけでなく、紙に書いて伝える方が良いという声もあることが分かったよ。

今回の調査できいたみなさんの声も参考にしながら、これからはもっと意見を伝えやすい仕組みを作ってもらえるようにこども家庭庁に提案していくよ！



こどもと関わるおとなにきいたこと

医療的ケア児、乳幼児についてきいたこと



今回、直接声をきくことができなかった、医療的ケア児や乳幼児については、こどもと関わるおとなに意見をきいたよ。

医療的ケア児や乳幼児は、言葉で意見を伝えることが難しいことが多いから、「意見を持っていない」と思われることもあるけれど、本当は伝えたいことがあること、そして、言葉で伝えるだけが意見を伝える方法ではないし、まわりのおとながこどもの様子や表情、行動などから、こどもの気持ちや意見をイメージして代わりに伝えることもできるのだから、その声をしっかりきかないといけないんだと言われたよ。

本人が直接伝えられるように手助けする工夫もできるよ。たとえば、ボタンをおして伝えるなど道具を使ったり、文字の代わりに絵や写真を使って表現してもらうことができると教えてもらったよ。

また、本人ではなく、誰かに代わりに意見や気持ちを伝えてもらう時には、家族はもちろん、本人と身近な関わりがある人からも話をきくことが大事だと言われたよ。

今回は時間や用意が足りず、本人たちのところにききに行くことができなかったのも、やむをえずこどもと関わるおとなに意見をききました。でも、本当は、できるだけ直接意見をきけるように、必要な工夫や用意についてしっかり考えなくてはいけないと考えているよ。

こども家庭庁も、今回直接意見をきくことができなかった、医療的ケア児や乳幼児のようなこども・若者からも直接意見をきくために、これからもっとがんばっていくつもりだよ。

7.これからのこと

ここまで調べてきたことから、国や自治体がこどもや若者の意見をきこうとする時は「意見をきく前」「意見をきく時」「きいた意見を反映する時」「意見をきいた後」のそれぞれで、気を付けるべき大事なことがあるということが分かりました。それをもとに、こども家庭庁に実現してほしいことを次のページにまとめました。

【意見をきく前】

- 意見をきくテーマについてのわかりやすい情報を事前に知らせて、意見を伝えることを助ける。
- おとなが決めたテーマだけでなく、こどもや若者が意見を伝えたいテーマを決めることができること。

【意見をきく時】

- 広く声をかける、学校で意見をきく、ふだん過ごす場所で意見をきくなど、さまざまな方法でこども・若者に声をかける。
- 対面やオンラインで話す、アンケートをする、SNSを使う、こども・若者を委員にするなど、さまざまな方法でこども・若者の意見をきく。
- こども・若者に安全・安心で、意見を伝えたいような気持ちになってもらえるような工夫をする。
- こども・若者から意見をきく技術を持った人を育てる。
- 声をあげにくいこども・若者の声をきくための工夫をする。

【きいた意見を反映する時】

- 政策の目的や、どれくらい実現できそうかということも考えながら、こども・若者にとって一番いいことは何かということを考えて決める。

【意見をきいた後】

- きいた意見についてどんなことを話し合ったのか、どう反映されたのか、反映されなかった時はその理由などを分かりやすく伝える。
- 意見を伝えたこども・若者や、意見をきいた人で振り返りをして、次に意見を伝えるとき、意見をきく時にはもっとよくできるようにする。
- こども・若者の意見をきいてから、その後どうなったかまで、ひとつながりのできごと全体を世の中に広く発信し、こども・若者から声をきくことを当たり前にしていく。

こども家庭庁に伝えたいこと

これまではおとなが決めることが当たり前だった政策決定に、これからはこども・若者が参加できるようにするために、こども家庭庁には次のことをしてもらいたいと考えます。

【広くこども・若者の意見をきく取組をはじめる】

- さまざまな方法を組み合わせながら、広くこども・若者の声をきいて、政策に反映させる仕組みを作る。
- その取組の計画を立てたり、実行したりする場にも、こども・若者が参加できる機会を作る。
- こども・若者から意見を引き出す技術を持った人を育て、その人たちを地方自治体に送って、地域でこども・若者の声をきく活動を助ける。

【こども家庭審議会などの会議へのこども・若者の参加】

- 政府や地方自治体での審議会等の場でこどもや若者も委員になれるようにする。そして、委員の中にどれくらいのこども・若者がいるのかを数字で公開する。
- こどもや若者の委員が、安全・安心に意見を伝えられるための工夫をする。

【こども・若者がより良く参加できるための調査研究を行う】

- 声をあげにくいこども・若者から意見をきく方法や工夫などについて、これからもっとくわしく調査研究をしていく。
- 政府や地方自治体で働く人がこどもの意見反映にしっかり取り組めるような、分かりやすい手引きを作るための調査研究を行う。
- こども・若者が政策決定に参加するということの大事さを良くわかっていて、こども・若者から意見を引き出す技術を持った人を育てるための方法について調査研究を行う。

【こども・若者の政策決定への参加を世の中にもっと広める】

- こども・若者が政策決定に参加することを助けるために、こども家庭庁でこども・若者の意見についての仕事をする人をもっとふやす。
- こども・若者の政策決定への参加がうまくいった例を全国に広めたりすることで、地方自治体での取組をおうえんする。
- ふだんの生活から国の政策まで、こどもや若者の意見がきかれる場面をもっともっとふやしていく。

これらのことについて、こどもや若者の声をききながら、より良い方法にどんどん変えていてもらいたいです。一步一步確実に、こども・若者の政策決定への参加が進み、「こどもまんなか社会」に近づきますように。

参考情報

【この調査について】

- 報告書概要版→URL xxxxx
- 報告書全体版→URL xxxxx

【こども家庭庁について】

- こども向けホームページ→<https://www.cfa.go.jp/>
- YouTube→https://www.youtube.com/channel/UCZMUbe4IORUMvFYuO_Prpgg
- Twitter→@KodomoKatei
- こども政策担当大臣からのメッセージ
→<https://www.youtube.com/watch?v=eALgHeiLC8A>
- こども家庭庁説明資料
→https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_seisaku_suishin/pdf/betu2_kodomo_siryou.pdf
- 相談窓口 ※2023年4月に開設予定 
- 内閣官房 こども家庭庁設立準備室 総合政策担当
E-mail→kodomokatei.sougouseisaku@cfa.go.jp